

特集：高山祭の屋台行事



秋の八幡祭においては、9日の例大祭の御神幸（祭行列）、屋台の曳き廻し（一部）があり、夜には全屋台の



曳き廻しと曳き別れが行われます。10日には御神幸と、屋台の曳き揃えなどが行われ、夕刻曳き別れとなります。

山王祭の屋台12基と八幡祭の屋台11基は、江戸時代後期に発達した祭屋台の典型として、国の重要有形民俗文化財に指定されています。宮本、年行司と呼ばれる役の指揮による華やかな屋台の曳行と、屋台で上演されるからくり人形や囃子などの諸行事は、屋台を用いた祭礼行事の代表的なものです。

12月2日に行われた登録記念セレモニーでは、市内の小学校児童を代表して、西小学校6年生の皆さんより、高山祭に対する思いなど、決意表明がされましたので全文をご紹介します。

私は、高山で生まれ、高山で育ち、小学校に通っています。

高山祭の屋台行事は、約400年も受け継がれてきました。とても、伝統のある、世界にほこれる高山の行事です。

私は、その「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたということを知り、とてもうれしく、誇りに思いました。

いつもは、下から見上げていた祭屋台に、今年は乗せていただくことができました。そして、祭屋台の彫刻や幕、仕組みのすごさに改めて驚かされました。何よりも心にひびいたのは、祭屋台を

今まで守り続けてきた屋台組の方たちのお話です。どんな思いで、祭屋台を守り続けてきたのか、そして、どんな願いを持ってみえるのかを知りました。

引き継いでくれる人が減ってきているそうです。そのため、伝統行事を守っていくことが難しくなってきた地域もあることが分かりました。

また、お話の最後には、祭屋台行事と、それを守り続けてきた人たちの思いを未来へつないでいってほしいということも話されました。

それを聞いて、これからも、高山祭の屋台行事を続けていくためには、次の時代を担う私たち子どもが必要だと強く感じました。祭屋台保存会の皆さんが、屋台組でもない私たちを屋台に乗せてくださったのは、私たちに期待をしてくださっているのだと思います。だからこそ、私たちは、その思いを受け止め、何ができるのかを考えました。

私たちは、高山市の小学生として次の宣言をします。

宣言

1 今まで大切に伝えられてきた伝統・文化を知るため、地域の行事に進んで参加します。

2 次世代の担い手としての自覚を持ち、今まで受け継がれてきた伝統・文化、そしてそれを守り続けてきた人々の思いを伝えていきます。



私たちは、祭屋台に乗せていただく前に、祭屋台保存会の方のお話を聞きました。

今、高山では、祭屋台行事を行う人、